

学級経営について

—子どもたちが成長する学級作り—

江坂 栄子

はじめに

小・中・高いずれの学校でも学級は子どもたちにとって学校生活のベース（基地）である。担任は担当する学級の責任者として適切な学級経営を行わなければならない。うまくいかなければ学級崩壊につながっていく。子どもたちの学校生活の満足度は学級担任と学級の構成員によって決まると思われる。学級経営の力は、教科指導と異なり身に付けるのにかなりの時間がかかる。具体的に何をどうすればよいか、具体的に掴みにくい面があるためである。大学の教職課程における「学級経営」の講義内容を検討し、シラバスの例を示したい。

1. 子どもにとって学校とは、教師とは

大学生の調査結果を以下に示す。（調査数：117名）

(1) 学校とは子どもたちにとってどのような場であるべきか。

- ・学ぶ所（勉強＋α：人間関係、社会的スキル等）
- ・楽しくて行きたくなる所（身体の調子が悪くても行きたい所）
- ・落ち着ける・安らぐ所
- ・自分の居場所がある所
- ・素のままでも過ごせる所
- ・友だちを作る所
- ・いつも楽しい所
- ・時には歯を食いしばって目標に向かって努力する所
- ・先生や同級生とのコミュニケーション能力を身に付ける所
- ・新たな発見をする所
- ・様々な人と出会う所
- ・自分の存在価値（意義）を見つける所
- ・家族にも言えないようなことが言える所
- ・集団生活の愉しさ、難しさを経験する所
- ・部活動や学校行事で達成感、喜び、苦しみを分かち合う所
- ・人間関係に嘘や偽りが無い所
- ・みんなが素直に話すことができる所
- ・その時々には辛くても後で振り返った時によかったと思うことができる所

学校は知識や情報を学ぶだけでなく、生きていく上で必要な能力も身に付ける場であることがわかる。

(2) 学校生活の楽しさ

	楽しかった	楽しくなかった
小学校	75%	25%
中学校	93%	7%
高等学校	75%	25%

具体的には以下のような内容が多く挙げられた。

(小学校)

- ・放課や授業後にみんなでドッジボール、サッカー、バスケットボール等を一緒にやった
- ・仲の良い友人がたくさんいた
- ・授業が参加型でよくわかり、様々な疑問をもった
- ・男女の壁がなく、誰とでも気軽に話せることができた
- ・先生が友達のように、よく遊んでくれた

「楽しくなかった」と答えた割合も高く、主な理由は以下のようなものである

・先生のえこひいき（目立つ子ばかりを相手にして、おとなしい子はあまり目をかけてもらえなかった）

- ・悩みや相談したい事があっても、先生がなかなか気付いてくれず相談できなかった。
- ・けんかした時など公平に見てもらえず、一方的に叱られ悔しい思いをした

(中学校)

- ・勉強も部活動もとても忙しく自由な時間はなかったが充実していた
- ・学校行事が楽しかった
- ・授業で先生がいろいろなことを話してくれ、ためになった
- ・「生徒を育てよう」という気持ちが伝わってきた
- ・先生との関係は親密であったが、「いけないことはいけない」とはっきり言ってくれた

(けじめがしっかりしていた)

- ・部活動の先生が熱心で辛いこともあったが、充実していた

(高等学校)

- ・よい友人に恵まれた
- ・学校行事が楽しかった
- ・進路のことなど先生が真剣に相談にのってくれた

高等学校では「楽しくない」理由もかなりあがっていた。

- ・校則が厳しすぎる
- ・受験一色で何の楽しみもなかった
- ・先生が冷たく、近づきにくい存在であった
- ・気軽に相談できる先生がいなかった

年齢とともに楽しさの中身は変わってくるが、「好き仲間・友人・先生」との出会いはどの校種でも重要な要素である。

(3) 先生（担任）の好き・嫌い

	好き	嫌い
小学校	50%	50%
中学校	93%	7%
高等学校	67%	23%

どこの校種も先生と良好な人間関係を築くことができた場合により思い出になっている。

- ・よく話を聞いてくれた
- ・元気がないときなど、何気なく声をかけてくれた
- ・悩みなど、真剣に対応してくれた
- ・進路相談などではまるで自分の子どもように親密に相談にのってくれた
- ・ちょっとしたことでも上手に褒めてくれ、自信がもてるようになった
- ・一緒に遊んでくれた

2. 教職科目としての「学級経営」の中身について

1の学生調査の結果からすると、小学校、中学校は学級経営についてかなりの配慮がされており、教員自身もその重要性を認識して日々の指導にあたっていることが伺える。これに反して、高等学校では「学級経営」という概念がうすく、まして担任の関与が必要であるという認識が低い。生徒は放っておいても成長していくと思っている教員が多い。高等学校こそきめ細かな指導が必要である。高等学校における学級経営を念頭において以下のようなシラバスを考えてみた。

回数	内容
1	<p>授業オリエンテーション 学級経営の必要性・重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「講義＋討論＋エッセイ」を基本とする。実践発表の場合は、発表内容について全員で評価をする。問題点、課題をあげ全員の問題として意見交換をする。 ・第1時間目で学級経営の必要性、重要性について具体例をあげて説明をする。 ・人前での発表を2回行う。
2	<p>学級経営の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とりわけ、高等学校の現状を各学生の体験をもとにまとめ、演繹的に共通点（課題・問題点）を取り出す。 ・課題・問題点をどうすればよいかを話し合う。
3	<p>学級の役割・学級担任の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における学級の役割、その場合の担任の役割について実践例に基づいて説明し、よりよい学級経営のためには何が必要かを考えさせる、あわせて教員として必要な資質についても考えさせる。

4	<p>学級経営のノウハウ（基本1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が生徒のことをよく知る（教員から生徒に歩み寄る、面接という形をとらないで、日常的によく話しかけ様々な情報を入手しておく等） ・学級の目標を全員で考える。 ・全ての生徒が何かの役割を担う。（クラス役員を人数分作る） ・清掃当番も全員に割り振る ・朝のS Tは単なる連絡事項だけに終始しない。（生徒のスピーチなどを入れる） ・清掃後必ず帰りのS Tを行う。（担任はクラス全員の顔を見てから帰す）
5	<p>学級経営を支える協力体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副担任、学年主任、部活動顧問、養護教諭等を巻き込む（情報を常に共有する、クラスに来て話をしてもらう） ・生徒のリーダーシップを意図的に育てる。（様々な行事の責任者を全員に割り振り、スタッフ会議などを行って他の生徒を引っ張っていく訓練をする）
6	<p>学級経営案の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営に関する論文を読み、理論的勉強をする。 ・実際に経営案を作成する。
7	<p>実践事例と考察（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な実践例から学ぶべきところを取り出し話し合う。
8	<p>実践事例と考察（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的実践例の改善点に重点をおき、全員で話し合い、よりよい方法を考え出す。
9	<p>実践事例と考察（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで習ったことをもとに具体的な方策を考える。
10	<p>具体的場面での教員の動き（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校祭での教員の動きについて具体的に考察し、場面を具体的に再現してみる。 ・全員で評価をし、問題点、課題を話し合い、一つの結論を出す。
11	<p>具体的場面での教員の動き（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスマッチでの教員の動きについて具体的に考察し、場面を具体的に再現してみる。 ・全員で評価をし、問題点、課題を話し合い、一つの結論を出す。
12	<p>具体的場面での教員の動き（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足での教員の動きについて具体的に考察し、場面を具体的に再現してみる。 ・全員で評価をし、問題点、課題を話し合い、一つの結論を出す。

13	<p>具体的場面での教員の動き（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクールでの教員の動きについて具体的に考察し、場面を具体的に再現してみる。 ・全員で評価をし、問題点、課題を話し合い、一つの結論を出す。
14	<p>具体的場面での教員の動き（５）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業式での教員の動きについて具体的に考察し、場面を具体的に再現してみる。 ・全員で評価をし、問題点、課題を話し合い、一つの結論を出す。
15	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の重要性を再認識させる、特別なことではなく日々の地道な努力がよい学級、活力があり、子どもたちが学校に来たくなる学級を作ることを認識させる。

おわりに

かつて、高校に勤務していた頃、朝の「10分間読書」の時間に校内を回ると、教室に入らなくてもクラスの雰囲気が伝わってきた。落ち着いたクラス、何となくぎわついているクラスなど、担任の人柄がそのまま現れているように思えた。学校生活の大半を過ごす学級は生徒たちにとって重要な場所である。物理的には安全・安心な場で心おきなく授業に集中できる場であってはならない。また精神的には自分の存在価値が認められており、居場所があること、苦しいとき、困った時には声をかけてくれる友人や先生がいてくれる場。教科外の活動では、生徒同士ぶつかりあることもあるが、話し合いをしてまとめれば、みんなが一丸となって取り組める場であるべきである。このようなことは生徒だけでは簡単にできることではない。教員は3年間を見通してそれぞれの学年にふさわしい指導を地道に重ねていくことが必要である。小・中学校のように教員が表立って集団を引っ張ってだけでなく、時には（こちらが大半になるが）生徒が気付かないような方法で援助したり、リードしていくことが肝要である。高等学校での指導は生徒が大人になりつつあるため難しい面もある。中学生に比べれば生徒は成長しており、それなりのプライドやリーダーシップも備えている。それまでの経験ではうまくいっても高等学校ではうまくいかないことが多い。そのような場合担任は間髪を入れず、援助の手を差し伸べるべきである。授業以外の学校行事（学校祭、合唱コンクール、修学旅行等）で生徒がどれほど成長していくか。担任も苦しいが、悩みや課題を乗り越えて成長していく姿は新たなエネルギーを教員にくれるものである。また、教員にとっては無上の喜びでもある。

（参考文献等）

- ・高等学校学習指導要領解説 総則編
- ・生徒指導提要
- ・「学級経営」シラバス（文教大学、愛知淑徳大学、静岡大学、筑波大学、広島大学）